

目次

提言要旨	1
第1章 はじめに	2
第2章 現状と課題	2
1 現状	2
1-1 自治体及び自治体職員をとりまく環境の変化	2
(1) 地方分権時代の自治体の役割	
(2) 多様化する社会が求める自治体職員	
1-2 市町村における職員採用試験の現状	3
(1) 総論	
(2) 求める人材像	
(3) 採用プロセス	
(4) 採用試験の結果	
1-3 今どき世代の若者像	5
(1) 働く上で大切にしたい価値観	
(2) 働きたい組織の特徴	
(3) 離職率	
2 課題	6
(1) 求める人材像の明確化	
(2) 人物重視の採用試験	
(3) 受験者数の確保	
(4) 内定辞退者対策	
(5) 採用者の定着	
3 採用システムにおける事例	8
第3章 政策提言	9
1 今どき世代の人材確保 ー採用システムへの提言ー	9
(1) 採用試験にお金と時間とアイデアを！ ～採用試験に効率性を求めすぎていませんか？～	
(2) 上から目線はもう古い！おもてなしの採用試験	
(3) 求める人材像別採用試験 ～浅く広くから深く広くへ～	
(4) 選考だけではもったいない！職員育成につながる採用試験	
2 今どき世代の人材育成 ーコミュニケーションアップと定着に向けた提言ー	13
(1) コーチ（メンター）を育てよう！ ～若者にだけ原因があると思いませんか？～	
(2) 人財をフル稼働して、鉄を熱いうちに打つ！〇〇市自治小学校開校	
第4章 おわりに	14

提言の要旨

今どき世代の人材確保

～1人はみんなのために、みんなは1人のために～

現状と 問題点

地方分権改革と行政改革により担う役割が増大し、求められる能力が以前とは異なってきているが、採用方法は長く変更されておらず、受験と選考がマニュアル化されているために、自治体が求める人材とのミスマッチが生じていたり、採用しても数年で辞めてしまう職員がいる。

課題

提言

受験者数が少ない

★ 採用試験にお金をかけよう！

求める人材を確保できていない

★ おもてなしの採用試験

内定辞退者への対策

★ 求める人材像別採用試験

採用後の定着の取組

★ 職員育成につながる採用試験

★ コーチ（メンター）を育てよう

★ ○△市自治小学校
（若手養成課程）

効果

- 受験者数の増加により、選考の幅が広がる
- 理想の人材が採用できる
- 早期退職・求職者が減少する
- 得意分野の見極めにより、効率的な人材育成が図られる
- 若手職員の能力を伸ばすことができる
- 職員の結束が固まり、組織力があがる